

嚥下運動機能検査 (Assessment of Motor Function for Dysphagia; AMFD) の臨床的応用

¹⁾ 多摩リハビリテーション学院, ²⁾ 新潟医療福祉大学
 ○鈴木真生¹⁾, 西尾正輝²⁾

国内において嚥下関連筋群の評価を重視した包括的なスクリーニング検査法は存在しておらず、急性期、回復期、維持期、介護予防のすべての分野で実用的なスクリーニング検査法が求められている。そこで、こうした条件を満たした検査法として、嚥下運動機能検査 (Assessment of Motor Function for Dysphasia; AMFD) が西尾ら (2016) によって開発された。AMFD は、ディサースリアに対して国内で唯一標準化された標準ディサースリア検査 (Assessment of Motor Speech for Dysarthria; AMSD) を改変した、簡便で包括的な嚥下器官の運動機能検査である。

AMFD は、AMSD に含まれる発声発語器官検査 29 小項目のうち、嚥下器官の運動機能に関与する 17 小項目からなる。縮減するにあたり、1. 一般に神経学的検査として重要視されている、2. 嚥下器官の運動機能評価において臨床的有用性が高いと思われる、3. 言語聴覚士以外の職種が実施できるように、バイトブロックのような言語聴覚療法に特有の用具を使用しない、4. ベッドサイドや訪問リハビリテーションにおいても簡便に実施でき、クライアントに負担を与えない、という 4 点をすべて満たすことを条件とした。AMSD から抜粋した 17 小項目に、「咳嗽力」の 1 小項目を新たに加えた 18 小項目が嚥下器官の運動機能の評価する項目である。これに、摂食嚥下障害において標準化されているスクリーニングテストとして、反復唾液嚥下テスト (repetitive saliva swallowing test:RSST), 改訂水飲みテスト (modified water swallowing test:MWST), フードテスト (food test:FT) の 3 種の検査を嚥下機能の評価する項目として加え、全 21 小項目とした。さらに、摂食場面の観察と補助検査 (歯の欠損状態や口腔衛生状態などの所見を記録) を加え、従来複雑であった諸スクリーニング検査を一括して統合的に扱うことができるようになった。

嚥下障害とディサースリアの合併率は高く、Nishio ら (2004) はディサースリア患者 115 例の 73.5% で嚥下障害の合併を認めたと報告している。嚥下運動と発

話運動が多くの末梢器官 (口腔, 咽頭, 喉頭) を共有している点から、両運動の生理学的・神経学的・運動学的相違点と類似点をわきまえた上でこれらの共有器官の運動機能を同時に評価することは、臨床的に効率的である (西尾ら, 1995; Nishio ら 2004; 西尾ら, 2016)。

本セミナーでは、AMFD の概説とともに、系統発生的観点から嚥下運動と発話運動を同時に評価することの必然性をふまえ、ディサースリアと嚥下障害を同時並行的に評価する際における AMFD の臨床的有用性について症例を用いて解説する。

繰り返すが、嚥下運動と発話運動を同時に臨床的に扱う上で、AMFD は AMSD というプラットフォームに依拠した臨床的ツールであり、「高齢者の発話と嚥下の運動機能向上プログラム (Movement Therapy Program for Speech & Swallowing in the Elderly; MTPSSE)」へとつなげる重要な役割を担う。

なお、AMFD を正確、円滑に施行するには、その母体である AMSD の検査内容に熟達しておく必要があり、AMSD 講習会に参加しておくことが望ましいことを付記しておきたい。

文 献

- 西尾正輝, 星 研一, 桜井美和子, 遠藤利江: 嚥下障害を合併した Dysarthria の臨床的マネジメント. 音声言語医学, 36: 206-217, 1995.
- Nishio M, Niimi S: Relationship between speech and swallowing disorders in patients with neuromuscular disease. Folia Phoniatrica et Logopaedica, 56: 291-304, 2004.
- 西尾正輝, 阿部尚子, 岡本卓也, 福永真哉: 標準ディサースリア検査の嚥下障害への臨床的応用の試み: AMFD の開発. ディサースリア臨床研究, 6: 4-10, 2016.

■略歴

多摩リハビリテーション学院言語聴覚学科学科長. 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究所修士。

所沢中央病院, 多摩リハビリテーション学院言語療法学科を経て、現職。